豊中市立青少年自然の家について

豊中市教育委員会事務局　社会教育課

2019年11月26日

はじめに

- 豊中市は、豊かな自然環境の中での自然体験活動、野外活動を通じた青少年の健全育成を図るため、大阪府能勢町に豊中市立青少年自然の家（通称「わっぱる」）を設置しています

- 現在、指定管理者による管理運営を行っており、プログラムやスタッフの対応について利用者から評価を得ている一方、施設の開設から 40 年以上経過し、リノベーションや増築等により施設を更新するとともに、より市民に利用されるためのサービスの向上等が望まれています。

- そこで、今後の方策の可能性として、自然の家の土地・建物を民間事業者に条件付きで譲渡または貸付を行うことにより、市民の自然体験や青少年団体の野外活動の場としての機能を保持しつつ、民間企業による利活用により、多くの人の利用や魅力の向上につながる管理運営が可能であるかを検討を実施したいと考えています。

- 本資料では、わっぱるの現状の施設や利用動向、課題等、想定される将来利用等を明らかにしながら、民間事業者の方の事業化の可能性についてご意見を賜りたいと考えております。

豊中市青少年自然の家（わっぱる）の立地

豊中市立青少年自然の家　わっぱるとは
• 豊中市が所有する社会教育施設で管轄は豊中市教育委員会。2010年よりNPOによる指定管理を行っている。 • 主に青少年の自然体験、野外活動のための施設として1960年代にキャンプ場、70年代に宿泊施設をオープン • 施設は大阪府豊能郡能勢町に位置し、京都府亀岡市との府境に接している

車によるアクセス

＜豊中市方面から＞1ルート例
国道176号線より、国道173号に入り篠山方面へ
（所要時間：約1時間）

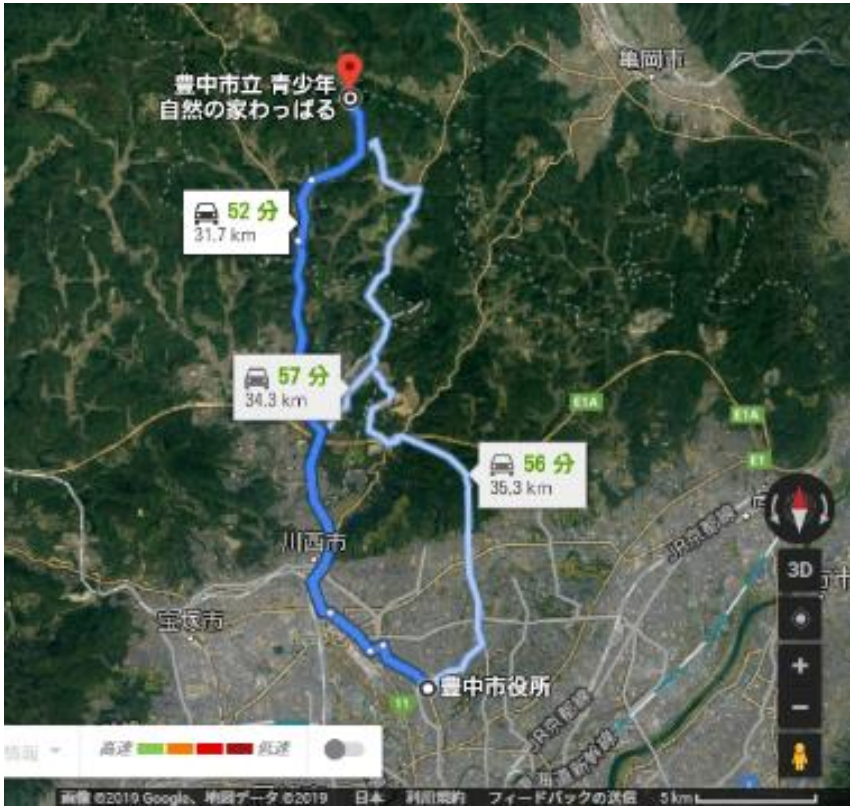
公共交通によるアクセス

豊中駅
↓
川西能勢口駅　　阪急宝塚線　9分
↓
山下駅　　能勢電鉄妙見線　17分
↓
豊中センター前　　阪急バス*　約40分

（所要時間：約2時間）

*バスは1日5本程度の運行頻度

わっぱる位置図及び豊中市からの距離



出典 Google Mapに加筆

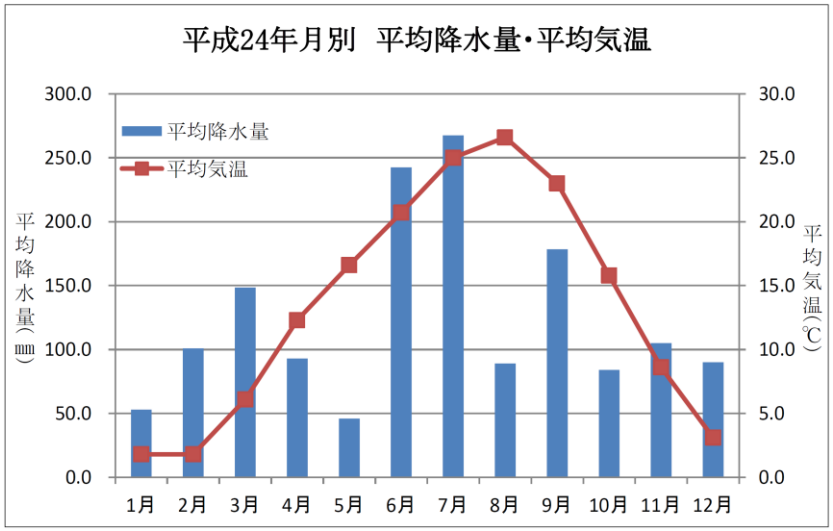
能勢町について

わっぱるが所在する能勢町は人口178万人を抱える大阪北摂エリアに位置し、近年開通した新名神高速道路により、大阪・京都・神戸市へのアクセスが向上した。能勢町は山林に囲まれ、豊かな自然が残されたエリアで、平均気温は大阪市内よりも約3度低く、冬場は多少の積雪が見られる。

能勢町の人口
（2019年6月現在住民基本台帳）

人　口　9,976人
世帯数　4,573世帯
出典　能勢町ホームページ

出典　能勢町ホームページ「企業立地・雇用促進特設サイト」
http://www.town.nose.osaka.jp/business/3996.html



出典　能勢町ホームページ「NOSE DATA BOOK 2013」
http://www.town.nose.osaka.jp/chosei/toukei/4006.html

出典　能勢町ホームページ「企業立地・雇用促進特設サイト」
http://www.town.nose.osaka.jp/business/3996.html

施設概要

施設名	豊中市立青少年自然の家　わっぱる
管轄	豊中市教育委員会
施設種類	社会教育施設
所在地	大阪府豊能郡能勢町宿野151-68
敷地面積	約9.4ha
竣工	キャンプ場：1962年 宿泊棟・管理棟：1973年
主な施設	宿泊棟・管理棟　1棟 テントサイト：12か所 山小屋：　3棟 炊事場：5か所 水遊び場：1か所 キャンプファイヤー場：4か所 駐車場：1か所　大型バスのみ8台 乗用車のみ 30台 （＋職員用1か所） 浄水施設

主な施設の収容人数

施設	人数	備考
キャンプ場（日帰りの場合）	300	
テントサイト（目安利用人数）	235	
宿泊棟・管理棟	200	
山小屋（棟によって異なる）3棟	45	（1棟あたり15人換算）

経緯	
1962年	豊中市立青少年野外活動センター（キャンプ場）開設
1973年	少年自然の家（宿泊棟・管理棟）開設
2008年	「青少年自然の家　わっぱる」としてリニューアルオープン（青少年健全育成施設及び市民の里山としての利用）
2010年	NPO法人豊中市青少年野外活動協会による指定管理開始
2020年	現在の指定管理期間終了 （その後1年延長の予定）

＜ＮＰＯ法人豊中市青少年野外活動協会＞

- 豊中市内および近隣の青少年やその家族を対象として、キャンプやスキー・スノーボード、サイクリングなどの野外活動を行う団体
- 昭和40年に設立された歴史ある団体。現在約50名の学生・社会人がボランティアスタッフとして活動
- わっぱるの常勤職員も本団体の出身者が多くを占める。

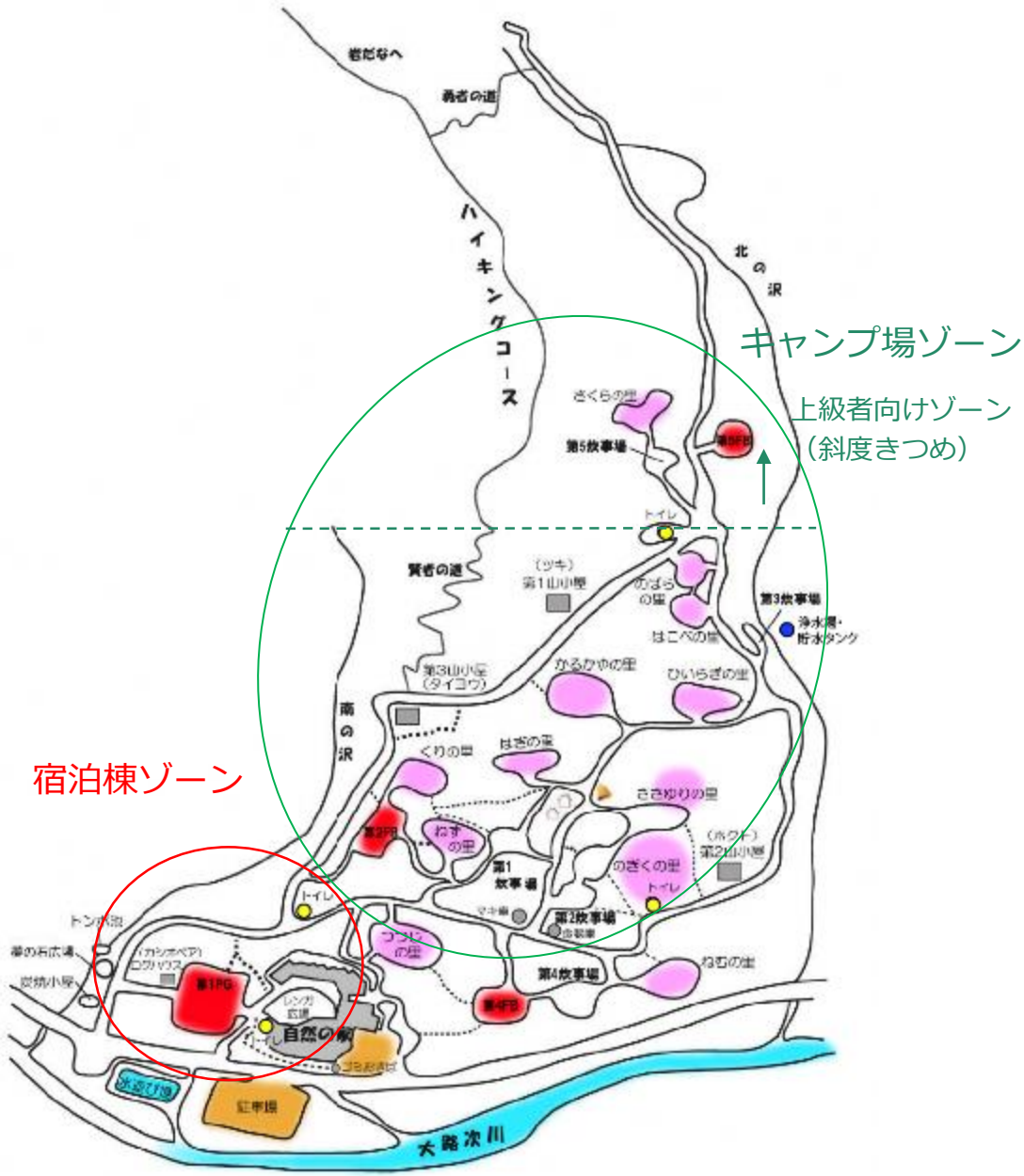
施設内地図及び写真

山小屋

ファイヤーベース
（FB）

宿泊棟・管理棟

川遊び場



山道

テントサイト

野外炊事場
（テントサイトの一部）

関係する法令の整理:大阪府能勢町

都市計画：能勢町

- 市街化調整区域→基本的には開発行為が抑制される地域

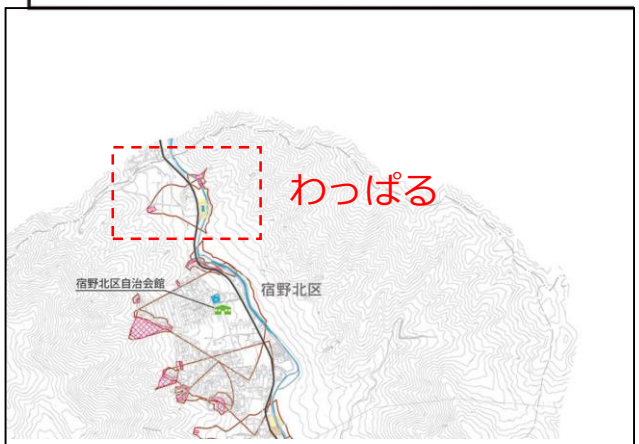
- 能勢町の方針：
✓ 野外活動における宿泊施設であれば増改築を許可
✓ それ以外の利用については認めない方向

原則として増改築は難しいが、青少年のための野外活動といった、当施設設立の趣旨に合致すれば可能。

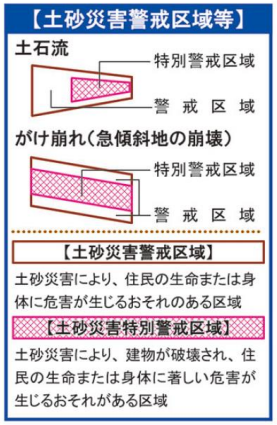
（但し、その他の開発行為でも能勢町にとっての経済効果等があれば交渉の余地はあることも想定される。）

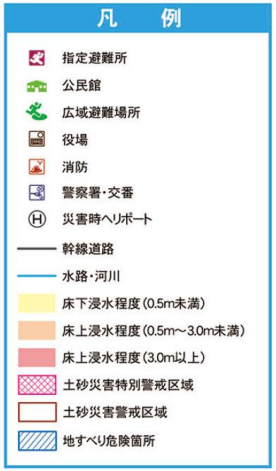
洪水・土砂災害ハザードマップ：能勢町

能勢町久佐々地区　洪水・土砂災害ハザードマップ
緊急時、すぐに持ち出しできるようにしましょう！



出典　能勢町ホームページ「洪水・土砂災害ハザードマップ」に一部加筆





- 敷地の大半が土砂災害警戒区域に指定
- 山の上と大路次川の一部が土砂災害特別警戒区域に指定
- 水遊び場が「床下浸水程度」となっている

➢ 2018年の大雨により土石流発生や、管理棟の床上浸水等も発生しており、土砂災害に対しては警戒が必要な地域
➢ 大阪府が、わっぱるの南を流れる沢への大雨時の流入を防ぐための河川改修工事を実施予定。これにより、土砂災害の危険性が低減すると想定される。

関係する法令の整理:豊中市立青少年自然の家条例（抜粋）

現況、「豊中市立青少年自然の家条例」、及び本条例を補完する「豊中市立青少年自然の家条例施行規則」が適用されている。主な設置目的は自然の中の活動を通じた青少年の健全育成とされ、利用料金等が定められている。利用者は豊中市民に限定されていない。

目的

(設置)
第1条　豊かな自然環境の中での自然体験活動，野外活動及び団体生活を通じて，青少年の主体性，創造性及び協調性を養うことにより，生きる力と互いの人格を認め合う心を育み，もって青少年の健全育成を図るため，青少年自然の家を設置する。

事業内容

(事業)
第3条　自然の家は，第1条の目的を達成するため，次に掲げる事業を行う。
(1)青少年の団体による自然体験活動，野外活動及び団体生活の場の提供
(2)自然体験活動，野外活動及び団体生活に関する指導，助言及び催しの開催
(3)自然体験活動，野外活動及び団体生活に関する情報の収集及び提供
(4)自然体験活動，野外活動及び団体生活の指導者の育成及び支援
(5)その他市長が必要と認める事業

利用料金

種別		区分	使用料
宿泊する場合	宿泊室(宿泊に使用する別表第2に掲げる和室(大)又は和室(小)を含む。)	小学生及び中学生	1人1泊につき300円
		高校生以上30歳未満	1人1泊につき400円
		30歳以上	1人1泊につき500円
	テント(宿泊に使用する別表第2に掲げる山小屋を含む。)	小学生及び中学生	1人1泊につき200円
		高校生以上30歳未満	1人1泊につき300円
		30歳以上	1人1泊につき400円
宿泊しない場合		小学生及び中学生	1人1泊につき100円
		高校生以上30歳未満	1人1泊につき200円
		30歳以上	1人1泊につき300円

備考　市外居住者(大阪府豊能郡能勢町に居住する者を除く。以下同じ。)が使用する場合の使用料の額は，この表に定める使用料の額に2を乗じて得た額とする。

現況分析：施設概況

施設種類	竣工	構造	建築面積（㎡）	延床面積（㎡）	宿泊人数
宿泊棟・管理棟	1973年　（築46年） 耐震改修工事済み	RC造	約1,332	約2,176	200人
テントサイト　12か所	1962年（築57年）	―	―	―	約235人
野外炊事場		―	―	―	―
第1山小屋（ツキ）	1988年			51.84	15－20人
第2山小屋（ホクト）	1990年			77.76㎡	15－20人
第3山小屋（タイヨウ）	1991年			40.6	10人

出典　わっぱる利用ガイド、豊中市提供情報をもとにNSRI作成

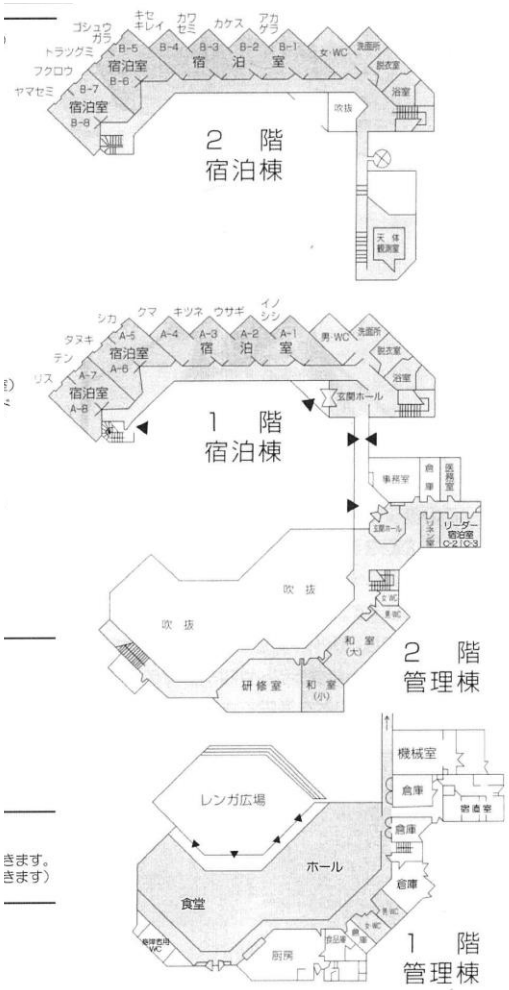
宿泊棟・管理棟

山小屋

テントサイト（常設テント）

現況分析：宿泊棟・管理棟

築50年近い建物は、清掃・維持管理がきちんと行われているが、全体的に老朽化が目立ち、運営スタッフによると恒常的に建物のどこかで雨漏り等の不具合が発生している。またエレベータがなく、バリアフリー対応が不十分である*。



建物外観。外壁の汚れが目立つ

ボイラー室。以前に比べると部屋が温まりにくいことあり

劣化が目立つ内壁

給食室。給食が必要な日に外部委託業者が来て調理を行う。

*現状は、1度外に出てスロープを利用して、階を移動することで動線を確保している。

現況分析：宿泊棟・管理棟

宿泊施設は1階と2階に分かれており、階によって男女別利用がされている。ほとんどの部屋が2段ベッドで1部屋が10人泊まれる部屋が16室ある。他に会議室利用も可能な和室もある。エアコンはコイン式のものを後付けで設置している。

10人部屋

1時間100－200円のコイン式エアコン

和室（大/26畳/15人）

比較的しっかりしたつくりのベッド

ベッドの間から出る暖房施設

和室（小/13.5畳/12人）

現況分析：共用部

管理棟内に共用部が存在。ホールや広場ではダンスやキャンプファイヤーなどの林間学校のイベントが実施。屋上には天体望遠鏡が設置されており、豊中市天文協会とのジョイントでイベントを実施することもある。

食堂（利用人数100人）

レンガ広場：キャンプファイヤーが可能

研修室（利用人数60人）

ホール：球技はできないが雨天時のイベントやダンス・合気道合宿などの軽い運動に利用可能

玄関ホール。現状wifiが使える唯一のスペース

天体望遠鏡。屋上に設置されている。星空が非常にきれいに見える。

現況分析：アメニティ

浴室は、宿泊施設全体（キャンプ場に宿泊する人も含む）で男女それぞれ1か所しかないため、団体ごとに調整して利用。トイレも浴室もバリアフリー化に対応できていない。

浴室（利用人数10－15人）

館内トイレはほぼこのようなしつらえ

和式トイレが主で洋式はほとんどない

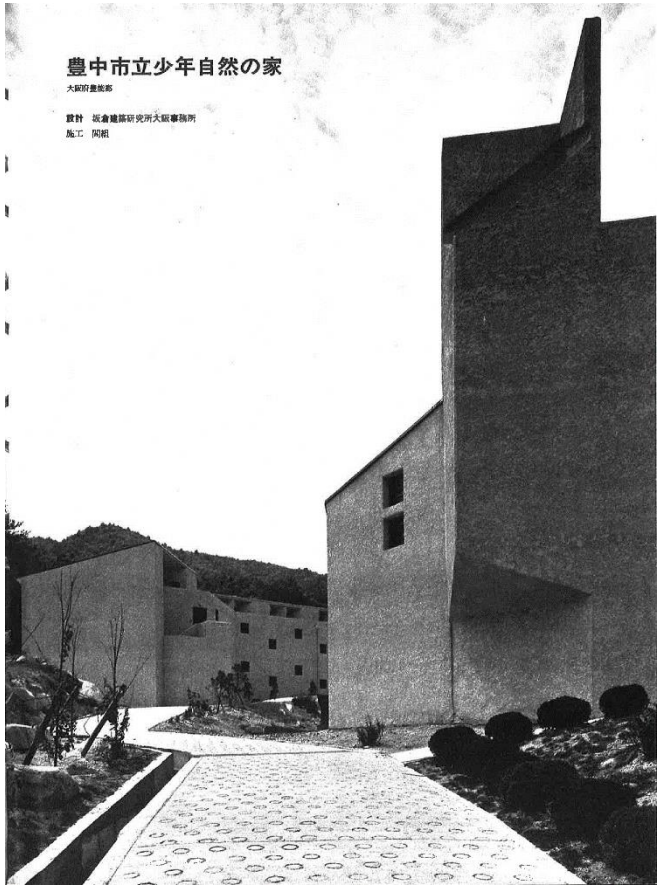
夏は節水のため湯船を利用しないこともある。（浄水施設のキャパシティの関係）

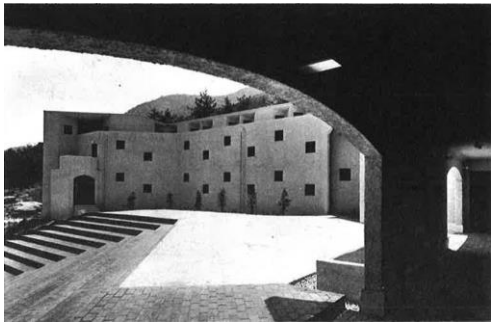
入口に段差があり、バリアフリー対応とはなっていない。

昔懐かしい水道施設。

現況分析：坂倉建築研究所により設計された建物

宿泊棟・管理棟は日本のモダニズム建築の代表的な建築家である坂倉準三氏の事務所の大阪事務所によって設計され、当時の建築雑誌にも取り上げられている。建物全体の複雑な形を活かすために、色彩計画は極力おさえている。施行は間組。





写真出典　『新建築』1974年7月

坂倉準三

1901年岐阜県生まれ。世界的に有名な建築家のル・コルビュジェに師事し、重要なスタッフとして勤務。1940年に自身の事務所を設立して日本にて活動。

注：坂倉氏は自然の家の建設には携わっていない。

出典　坂倉建築研究所ホームページ

坂倉事務所が手掛けた少年自然の家

	設計監理	施工	担当者 基本計画・設計	実施設計	現場監理	
宝塚市青少年野外活動センター＋少年自然の家 昭和48年5月竣工	宝塚市建築課 坂倉建築研究所大阪事務所 平田建築構造研究所 新日本設備計画	西田工業 吉沢電気工事 飯塚工業	太田隆信 山下　弘	太田隆信 吉村篤一 山下　弘	山下　弘	注(1)
豊中市立少年自然の家 昭和48年7月竣工	豊中市建築課 坂倉建築研究所大阪事務所 平田建築構造研究所 新日本設備計画	間組 中央電気 鈴工第一企業	太田隆信 高木富夫	高木富夫 笹野重紀（東京） 成瀬竹之助（東京）	高木富夫	
神戸市立自然の家　六甲施設 昭和48年9月竣工	神戸市営繕部 坂倉建築研究所大阪事務所 平田建築構造研究所 新日本設備計画	鹿本組 三菱電気 キリタ	太田隆信 新田　隆（概託）	太田隆信 吉村篤一 新田　隆（概託）	吉村篤一	
奈良県立青少年野外活動第2センター 昭和48年12月竣工	奈良県営建築課 坂倉建築研究所大阪事務所 平田建築構造研究所 桜井建築設備研究所（基本設計） 新日本設備計画（実施設計）	尾田組 近畿電気 福井水道工業	太田隆信 鈴木山富入 松林祐爾	吉村篤一 松林祐爾	松林祐爾	注(2)
長崎県立千々石少年自然の家 昭和49年3月竣工	長崎県建築課 坂倉建築研究所大阪事務所 平田建築構造研究所 新日本設備計画	鹿島土建 電工社 林村工業	太田隆信 松林祐爾	太田隆信 松林祐爾 山下　弘	松林祐爾	

現況分析：懐かしい空間

子どもたちの親世代が小中学校の時の林間学校に行った頃の空間を思い出すようなレトロな空間と手作り感あふれる空間は、親世代にとっては子供時代を思い出させる懐かしさを醸しており、リノベーションにより再生した場合に親しみやすい場所として好意的に受け止められる可能性がある。

「手塚治虫と未来を描こう」（1979年）
というイベントを実施

現況分析：キャンプ場（テント・野外炊事場）

テント場はテントサイトと炊事場とテーブル・椅子の施設がセットになっている。設備はいずれも古いが、きれいに維持されており使用に問題はない。食材を頼むと食器等が借りられるため、炊事場利用者の約8割*が食材を持たずに手ぶら利用をしている。

テントサイト

夏季の間の常設テント

ウッドデッキ式のテントサイト

野外炊事場

窯場

テーブル
（屋根が仮設的であるが、しつらえによってはもう少しよく見える可能性あり）

*スタッフ談

現況分析：水遊び場（大路次川沿い・プール）

大路次川沿いに川遊びができる場所があり、内陸部には水深が浅い（大人の腰程度）プールも併設され、子供の水遊び場として評判がよい。川沿いの空間はBBQサイトとして整備することも可。

道路を挟んで反対側に立地

川遊びに適したエリア

青少年団体と一緒に整備したひろば

川の水を利用したこどもの水遊び用プール

現況分析：山小屋

山小屋は3か所あり、いずれも1980年代後半から90年代に建てられており、宿泊棟・管理等よりは新しい。収容人数はいずれも15人以上で団体への対応を中心に作られ、内部は宿泊或いはレクリエーション活動をするための広い部屋が一つある。寝袋とマットを使って宿泊する。トイレはない。

第1山小屋

第2山小屋

第3山小屋

現況分析：その他野外施設（キャンプファイヤー場・野外トイレ等）

野外トイレは3か所あり、すべて水洗式であるが、ほとんどが洋式化対応がされていない。キャンプファイヤー場は敷地内に４個所が点在している。その他1時間程度で歩くことができるハイキングコースもある。

のぎくの里のトイレ

のばらの里近くのトイレ

キャンプファイヤー場

ハイキングコース入口

現況分析：施設の維持管理上の課題

運営スタッフへのヒアリングから、下記のような施設運営上の課題が指摘された。

維持管理上課題がある場所	問題点
敷地全般への大雨時の被害	大雨時に土石流等が発生し、宿泊棟の後ろまで土砂が押し寄せたことがある。（本敷地は土砂災害警戒区域内） →今年度実施予定の大阪府の河川改良により、大雨が流入する危険性は大幅に緩和される可能性が高い。
山の中の道路	大雨により道路が削れることがある
アカマツの立ち枯れ	森の中のアカマツが立ち枯れるため、スタッフでチェーンソーで切る等の管理が発生する
浄水場	建物及び施設が老朽化している（内壁が崩落したことがあり、2017年に内部塗り替え済） 夏のピーク時にはキャパシティがやや足りない（浴室の湯船の利用を制限） →隣接する亀岡市（京都府）側から水道を整備する交渉を市が実施中（但し整備には2年程度かかる）。

宿泊棟への土砂被害の痕跡

大雨により削れた道路の補修

スタッフ・ボランティア整備による階段

- 大雨災害からの復旧やその他の山の中の管理行為（壊れた通路の手すり・外階段の修復等）は青少年団体のボランティアで修繕している（年2回のワークキャンプ）
- わっぱるの実際の維持管理には、計上されている費用と、青少年団体による無償の貢献があり、今後これらの団体との関係を解消した場合には、この無償労働による維持管理行為が見込めず、管理コストが上がる可能性がある。

老朽化した浄水施設

現況分析：その他施設：駐車場

駐車場は、道路を挟んで反対側に１つある。混雑時には不足するため、第1PG（プレイグラウンド）や、管理棟裏の職員用駐車場を開放することもある。

<u>駐車場</u>

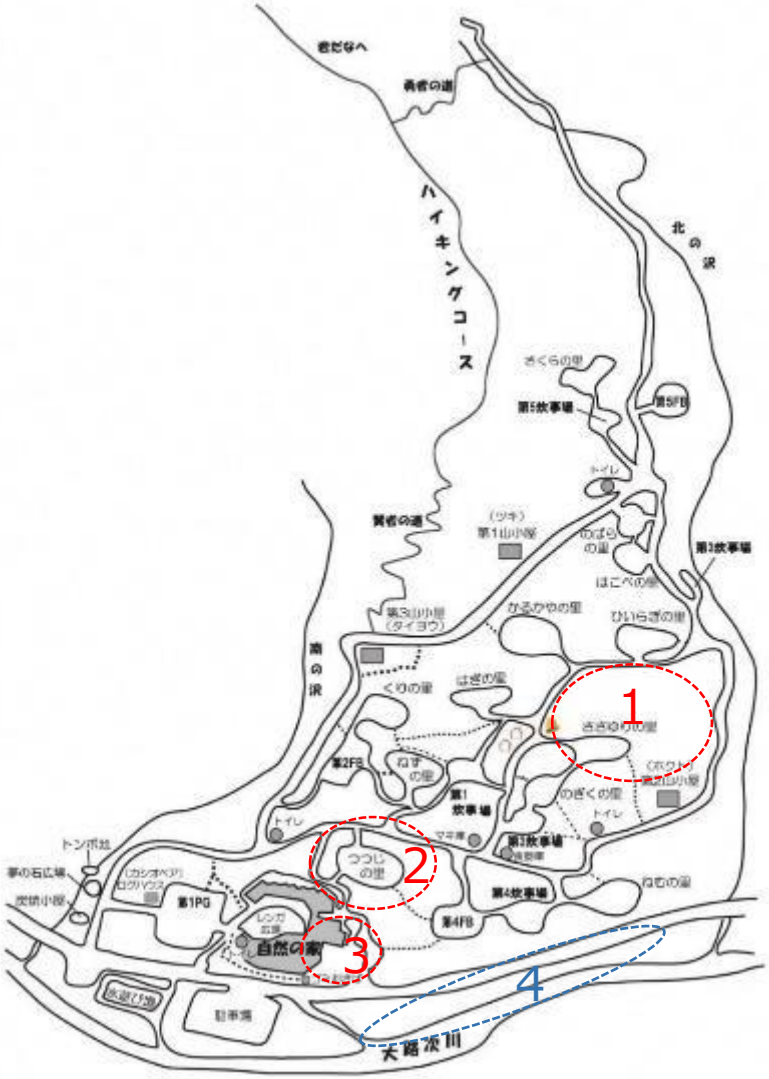
- 料金：無料
- 駐車台数
  - 大型バスのみ：　8台
  - 乗用車のみ　：30台

専用駐車場

職員用駐車場

【参考】増築の可能性が考えられる場所

敷地の事情をよく理解している運営スタッフによると、斜度が低い山の下のほうであれば、下記の場所で何らかの増築行為が可能なのではないかというコメントがあった。山の上のほうは2トントラック程度までは入れるが、大型のキャンピングカーがあがるのは難しいと思われるともコメントしている。(いずれも詳細な調査をしてはいないので確実ではない)



場所	特徴・利用イメージ
1. ささゆりの里	平坦で広い土地 第1山小屋と同程度の建物は可能か。
2. つつじの里	宿泊棟・管理棟に近いので一体的に利用
3. 職員用駐車場	宿泊棟・管理棟に近い。（但し繁忙期には一般にも開放しているので必要なスペース）
4. 川沿いのエリア	BBQサイト （但し、ゴミの管理に不安が残る、土砂災害にも注意が必要）

現況分析：運営団体の収入と支出運営費用

わっぱるは約6,100万円の費用で運営されており、うち最も多いのは人件費、次に多いのは外注検査等委託費（食堂運営委託費、警備費、浄化槽設備維持管理費が上位3位）であるが、ボランティアによる無償の修繕行為の費用は入っていないので、実態の維持管理費用はこれ以上かかる可能性がある。現状の収入は市からの指定管理料が約90%を占めている。自主事業は7%で次に多い。なお、宿泊費・利用料は市の歳入となっているが、200万円/年と非常に少ない。

収入

区分	金額		割合
豊中市指定管理料		54,500,000	89%
主催事業参加費収入		4,293,071	7%
補助金収入		800,000	1%
収益事業	ｼｰﾂ利用料収入	929,520	2%
	その他物販収入	752,558	1%
合計		61,275,149	100%

その他収入：市に入る収入

施設使用料　約188万円*2（H30年度実績）
1団体あたりの平均宿泊費　約9,700円
（但し、政策的な価格により無料の人もいる）

*1 職員は所長を含めて6名
*2 「使用料収入状況」台帳から集計

支出

区分	精算額		割合
施設運営人件費＊1		27,600,824	45%
燃料費		883,872	1%
光熱水費		2,307,971	4%
修繕費		3,026,281	5%
保険料		44,100	0%
外注検査等委託費		14,581,667	24%
主催事業運営費（育成費含む）	主催事業運営費	4,382,243	7%
	育成費	670,272	1%
運営事務費		5,657,478	9%
公課費		2,120,441	3%
予備費		0	0%
合計		61,275,149	100%

その他支出

前頁に記載のように、本来であれば、ボランティア活動によって無償で修理している屋外施設の修繕費用が掛かるはずである。

利用要件・料金

利用は二人以上のグループであれば市内・市外問わず、だれでも利用できるが、市内の目的利用（青少年の野外活動）の場合は料金・予約開始期間の面で優遇されている。しかし、宿泊費を含む施設利用料は概して低く抑えられている。その他、市内の家族連れで10人以下のグループは小中学生が無料等のルールがある。

利用者区分と料金・申し込み開始期間

使用団体				申込可能期間	使用料	備考
学校が使用			① 豊中市内の学校（幼・小・中・高） こども園・保育所（園） ※ 公立・私立とも	使用日１年前の同一日から受付（夏休み・春休み・土日・祝日を除く）	無料	夏休み・春休み・土日祝日は６カ月前の同一日から受付
学校が使用			② 能勢町内の学校（幼・小・中・高） こども園・保育所（園） ※ 公立・私立とも	使用日６か月前の同一日から受付（夏休み・春休み・土日・祝日を除く）	料金表の通り（P.5）	夏休み・春休み・土日祝日は３カ月前の同一日から受付
学校が使用			③ ① ② 以外が所在地の学校（幼・小・中・高） こども園・保育所（園） ※ 公立・私立とも	使用日６か月前の同一日から受付（夏休み・春休み・土日・祝日を除く）	料金表の２倍（P.5）	夏休み・春休み・土日祝日は２カ月前の同一日から受付
学校以外が使用	市内の人が使用	青少年団体	① 1. 10人以上で使用 2. 団体の過半数が30歳未満 3. 自然体験活動や野外活動、団体生活を行う ※以上３点を全て満たす場合	使用日６か月前の同一日から受付	無料	
学校以外が使用	市内の人が使用	青少年団体	② 上記①以外で、青少年健全育成のための調査・研究事業を10人以上で行う場合			
学校以外が使用	市内の人が使用	一般団体	上記「青少年団体」に当てはまらない場合	使用日３カ月前の同一日から受付	料金表の通り（P.5）	能勢町在住の方はこの区分に該当します。
学校以外が使用	市外の人が使用			使用日２か月前同一日から受付	料金表の２倍（P.5）	

施設利用料（宿泊費）

料金表1　施設使用料

区分	使用料		
	宿泊室で宿泊（和室は追加料金が必要）	キャンプ場で宿泊（山小屋は追加料金が必要）	日帰り
未就学児	無料	無料	無料
小・中学生	300円/1人・1泊	200円/1人・1泊	100円/1人
中学卒業～30歳未満	400円/1人・1泊	300円/1人・1泊	200円/1人
30歳以上	500円/1人・1泊	400円/1人・1泊	300円/1人

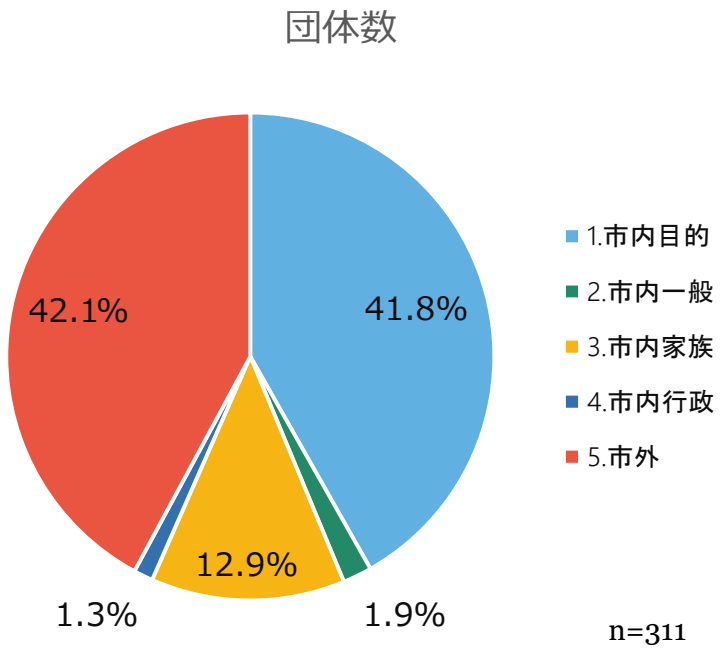
施設利用料（会議室、山小屋）

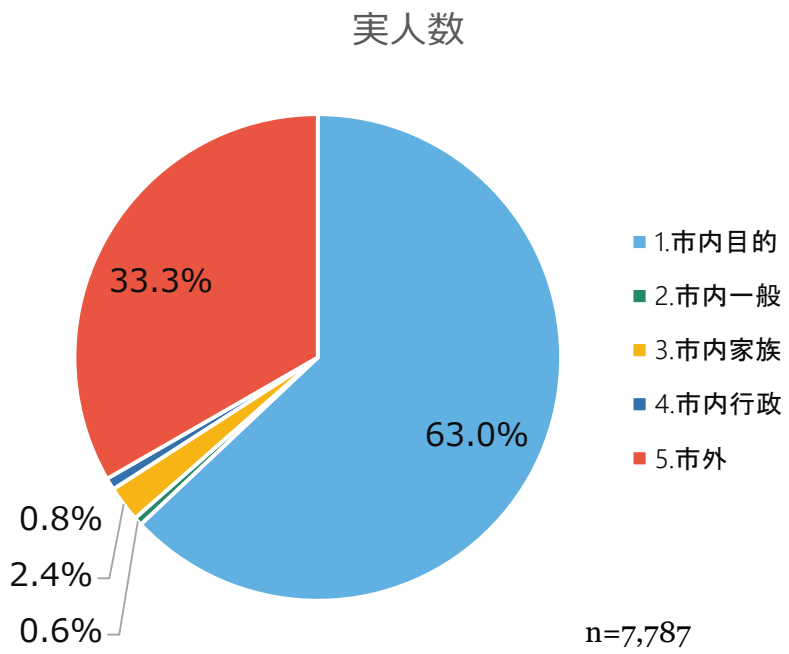
区分	1 9:30 ～12:00	2 13:00 ～15:30	3 16:00 ～18:30	4 19:00 ～21:30	5 22:00 ～8:30	全日
研修室 ※60人程度	500円	500円	500円	500円		2,000円
和室(大)※15人程度	500円	500円	500円	500円	500円	2,500円
和室(小)※12人程度	300円	300円	300円	300円	300円	1,500円
第1山小屋 ※20人程度 第2山小屋 ※20人程度 第3山小屋 ※15人程度	500円	500円	500円	500円	500円	2,500円

現況分析：利用者の区分

利用団体数＊は年間で合計311団体に及び、実人数ベースでは7,787人となる。団体数ベースでは市外利用と市内目的利用でそれぞれ約40%を占める。市内家族利用も約13%存在する。但し、実人数ベースでは市内目的利用が約6割と最も多く、次に市外利用が約3割を占める。市内家族は人数ベースでは約2%程度である。豊中市の施設ではあるが一定の市外の利用が見られる。

2018年度の利用団体数及び実人数





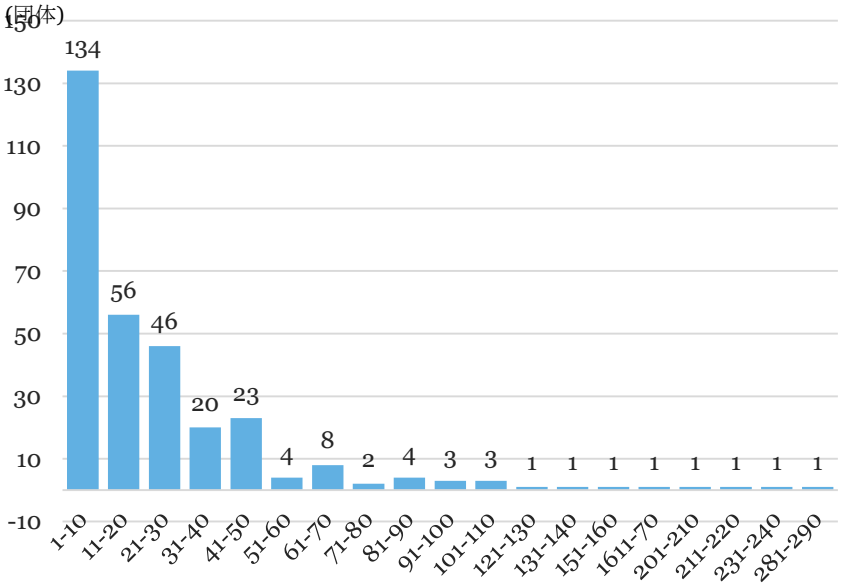
出典　わっぱる提供の2018年度利用者状況データをもとに作成

＊家族も1団体と数える。

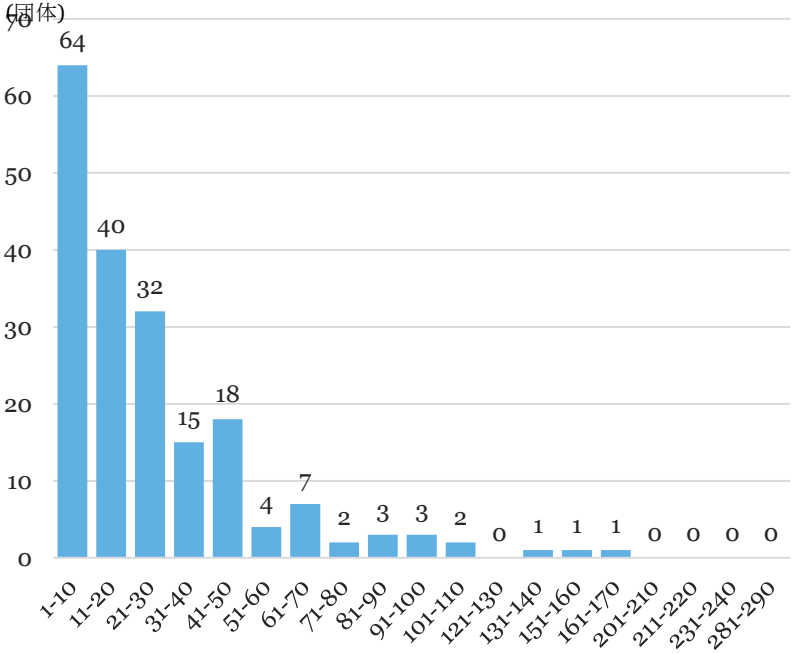
現況分析：利用団体の規模

宿泊・日帰り利用全体では、わっぱるを利用するグループは少人数のグループが圧倒的に多い。
宿泊のみの利用でも10人以下のグループの利用が最も多い。

2018年度の利用グループごとの人数の分布
（宿泊・日帰り、自主事業への参加者等含む）



2018年度の利用グループごとの人数の分布
（宿泊のみ）



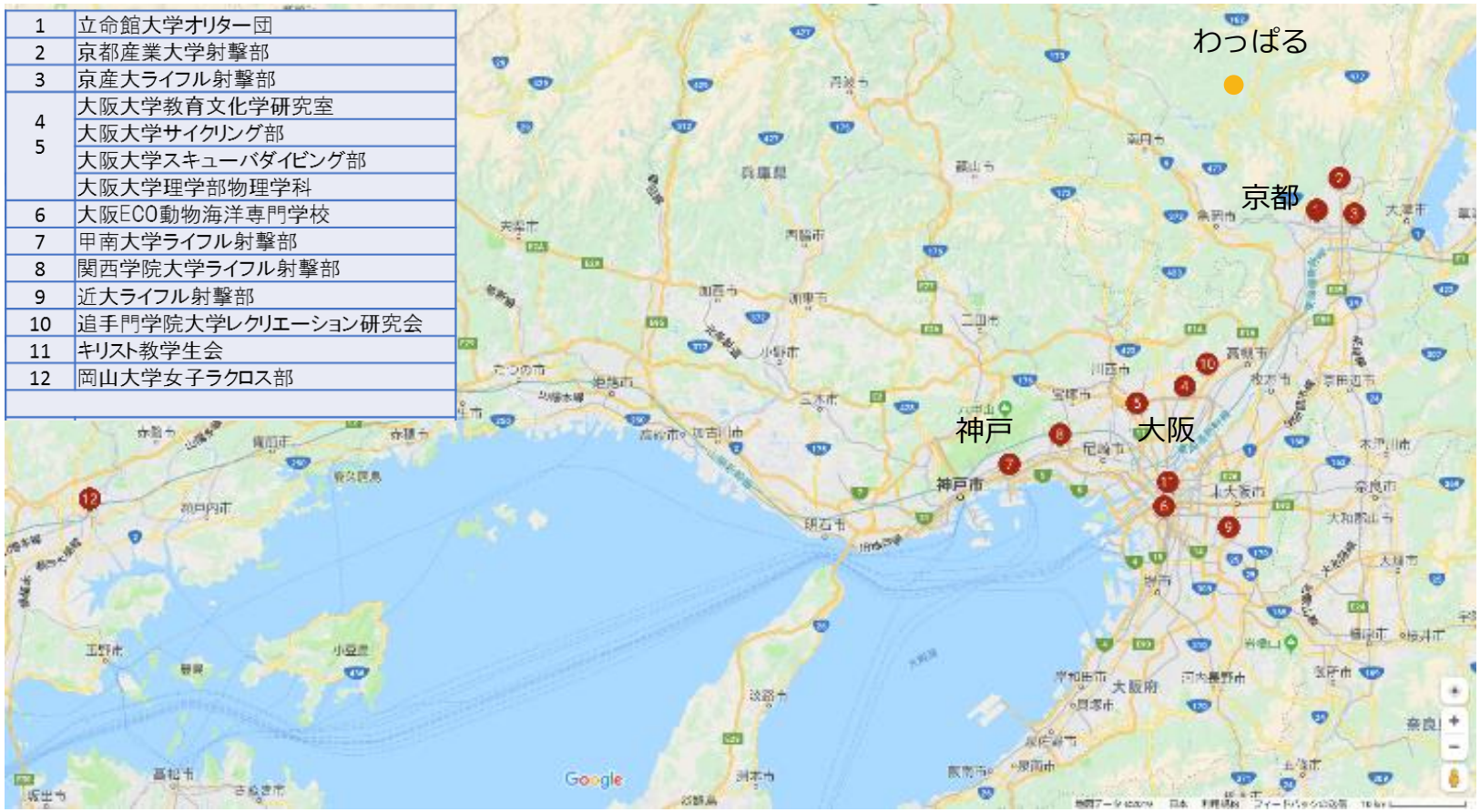
注：自主事業への参加者（200人規模）も1団体とカウントしている。
200人を超える団体はほぼ自主事業への参加者

市外利用者の広がり：大学・大学団体

利用者データの名称から所在地が判明した大学・大学生のグループは豊中市だけでなく、大阪・京都・神戸や遠いところでは岡山からの利用が見られる。
大学の利用者は宿泊だけの利用も多くみられる。

わっぱるを利用している「大学」・「大学団体」の所在地

1	立命館大学オリター団
2	京都産業大学射撃部
3	京産大ライフル射撃部
4 5	大阪大学教育文化学研究室
	大阪大学サイクリング部
	大阪大学スキューバダイビング部
	大阪大学理学部物理学科
6	大阪ECO動物海洋専門学校
7	甲南大学ライフル射撃部
8	関西学院大学ライフル射撃部
9	近大ライフル射撃部
10	追手門学院大学レクリエーション研究会
11	キリスト教学生会
12	岡山大学女子ラクロス部



利用者区分及び詳細

運営者へのヒアリングからは、大人数を集客する豊中市内の小中学校による林間学校利用が極めて少ないのが特徴的である。その他近隣の運動施設（能勢町のライフル場、亀岡市の運動公園等）の利用を目的として学生団体、能勢町で行われるコスプレイベントに参加する人による宿泊だけの利用も見られる。

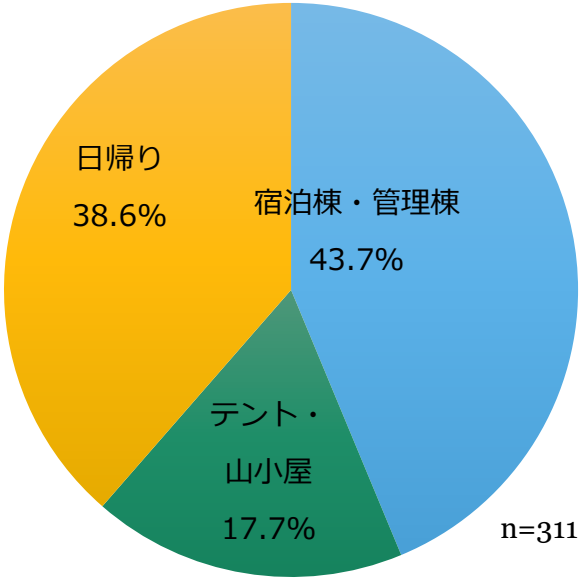
利用区分	詳細
幼稚園・保育園	豊中市内1園、大阪市内2園の継続的（数10年単位）かつ年間数回の利用実績あり（但し未就学児の利用は無料）
学校（林間学校）	豊中市59校の小中学校のうち1校小学校のみが、ここ6年ほど利用（1回130人程度） 能勢町の小学校の利用もあり
青少年団体	ガールスカウト、ボーイスカウト、子供会、体操教室等の団体利用を指す その他大学の合宿等（宿泊のみ利用が主、能勢町のライフル射撃場や、隣接する亀岡市の亀岡運動公園で行われる大会への参加者等） 企業の研修（年間1，2件程度）
家族	個人利用 複数家族が集まって申し込む人もいる

現況分析：利用形態

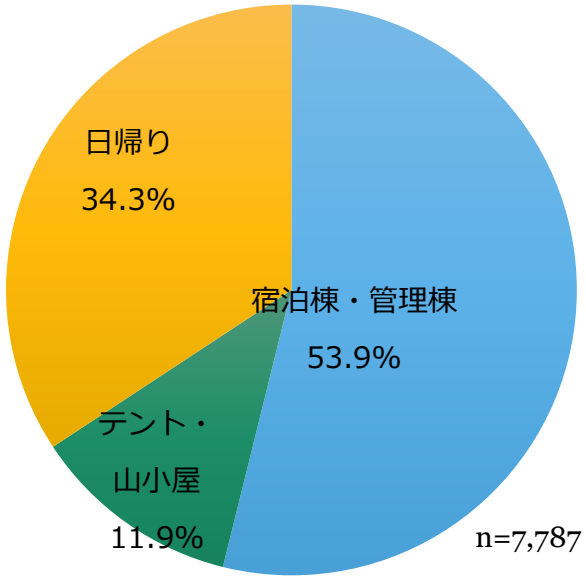
団体数及び実人数のうち全体の約60%が宿泊を行い、日帰りの団体は全体の40%程度。
現在のわっぱるの利用形態のメインは宿泊となっている。

2018年度の利用形態（団体数及び実人数）

団体数



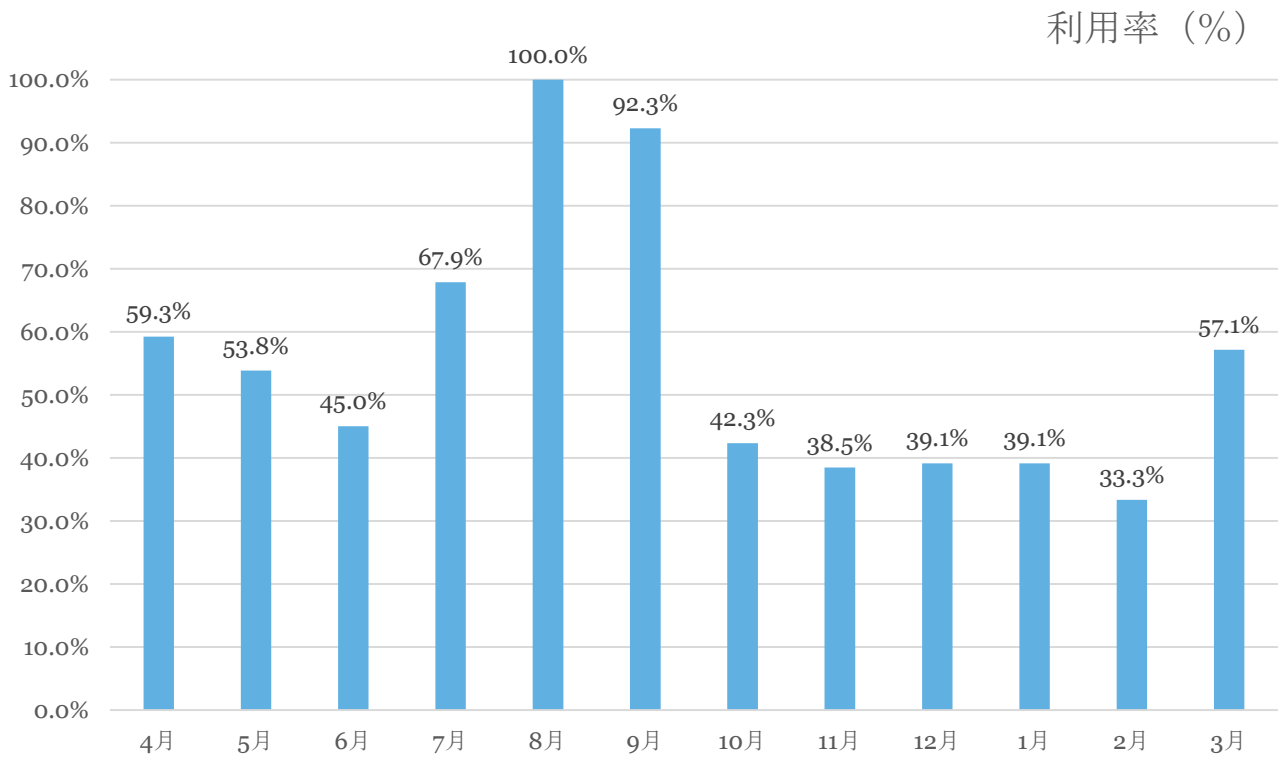
実人数



利用状況：季節による変動

年間の平均施設利用率は57%である。夏の利用率が突出して多く、運営スタッフによると夏はキャパシティを超える申し込みがある。
一方、その他の季節の利用率は低く、とくに冬季が低い。

2018年度の施設利用率＊

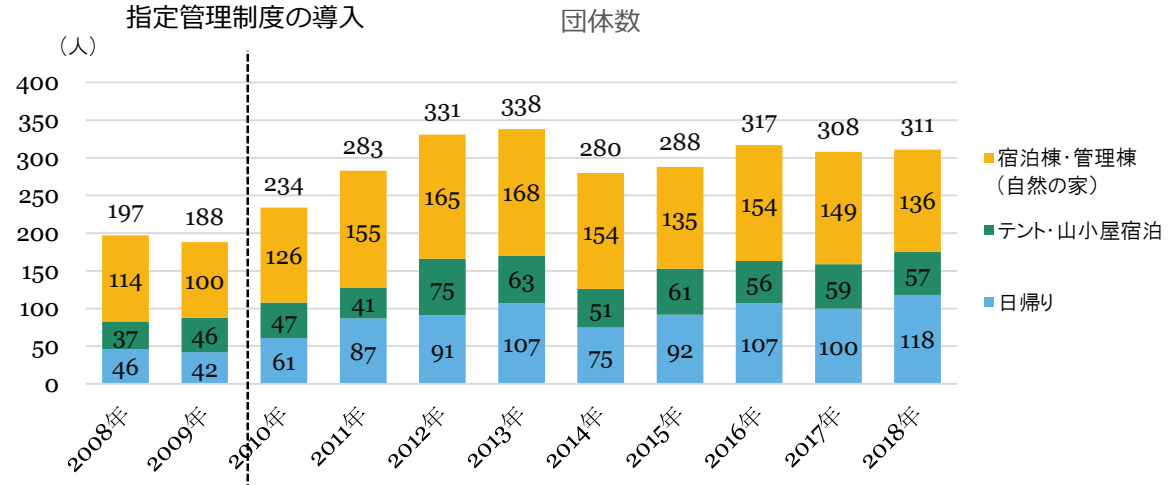


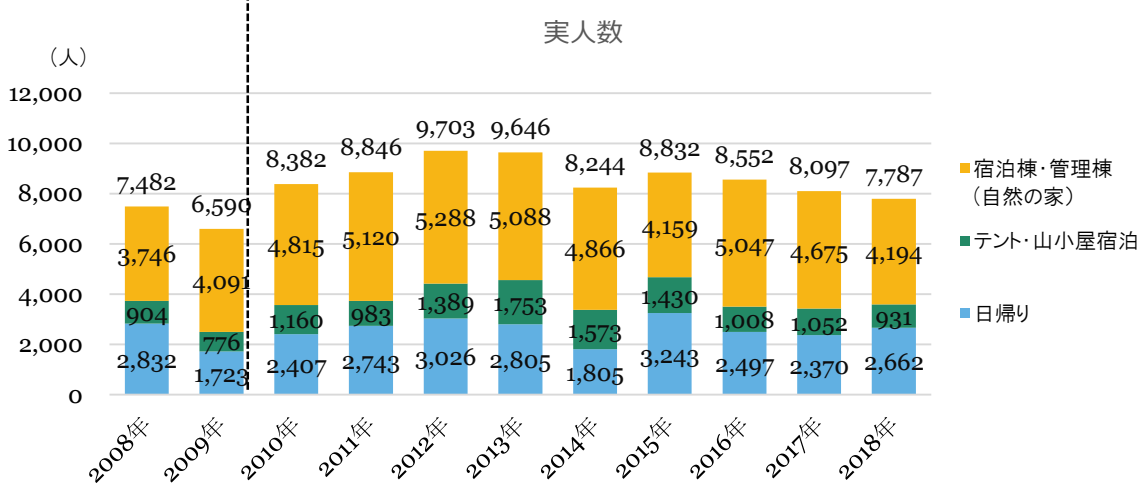
*利用率＝稼働日数/月の開所日数

現況分析：利用者数の経年変化

過去10年間で団体数・実人数とも増加している。どの利用区分も団体数ベースでは伸びているが、実人数ベースでは微増或いはマイナスになっており、家族等の小人数のグループ利用の増加によると推測される。

平成30年度(2018年)利用状況





2008-2018年度の団体数の年平均成長率（CAGR）

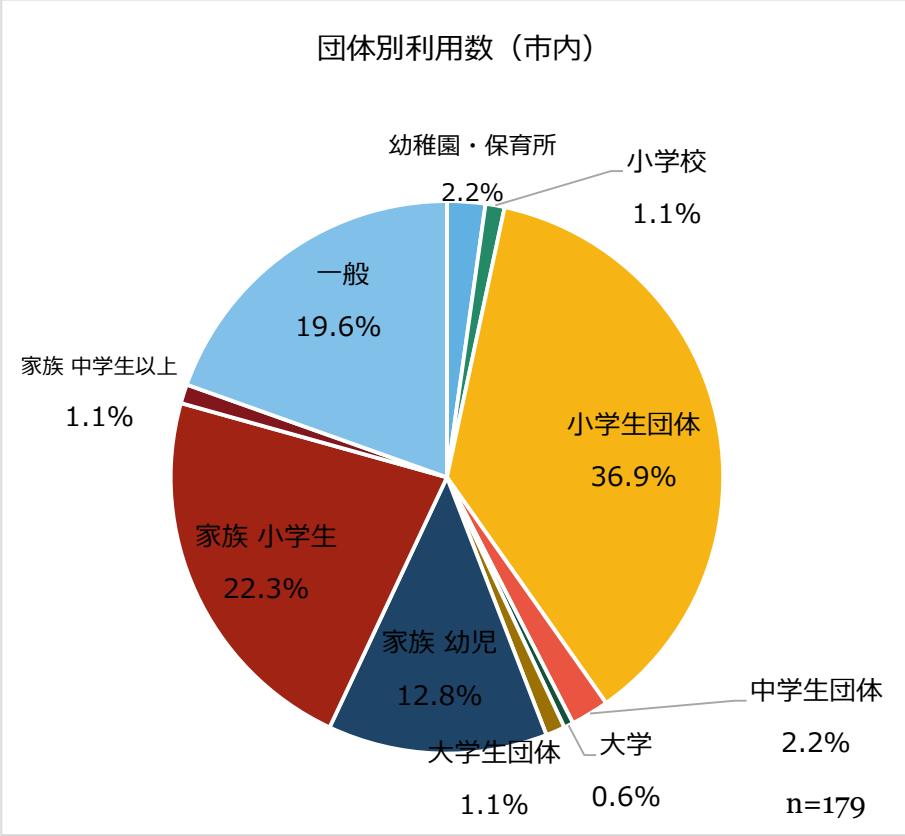
区分	CAGR
日帰り	9.9%
テント・山小屋宿泊	4.4%
宿泊棟・管理棟(自然の家)	1.8%
合計	4.7%

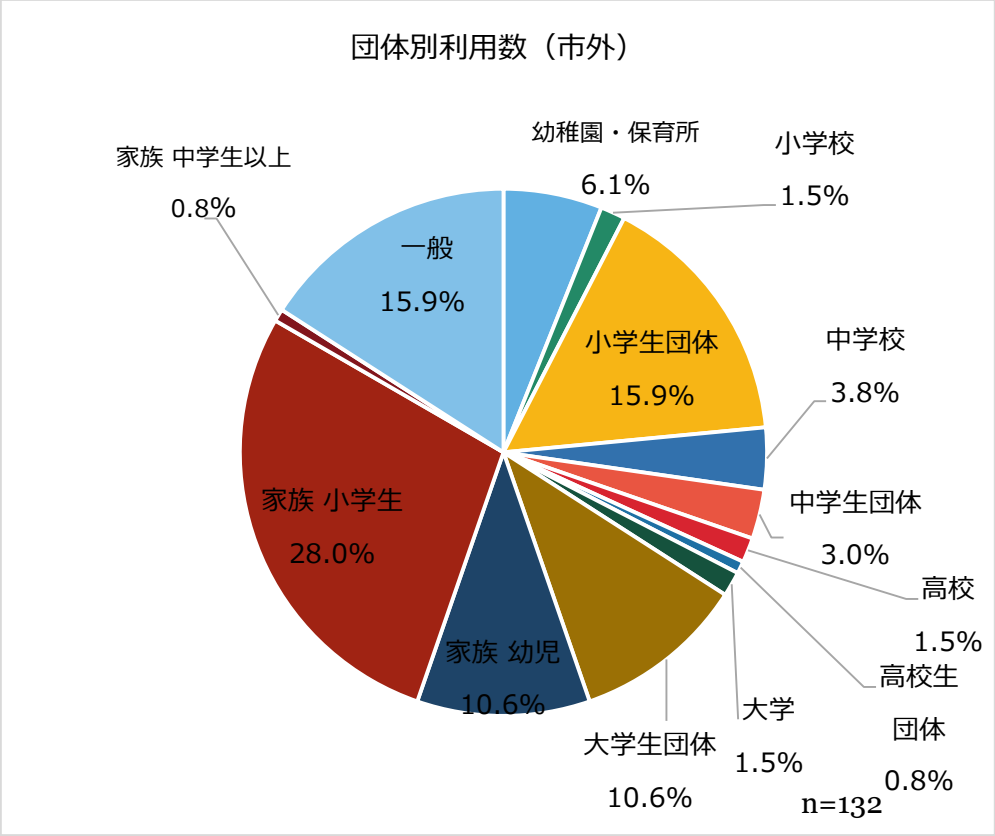
2008-2018年度の実人数の年平均成長率（CAGR）

区分	CAGR
日帰り	-0.6%
テント・山小屋宿泊	0.3%
宿泊棟・管理棟(自然の家)	1.1%
合計	0.4%

現況分析：利用者区分（団体別・市内外）：子供・家族利用の多さ

市内は「小学生団体」、「家族・小学生」、「一般」の順に利用数が多い。市外は、家族小学生、小学生団体、一般の順で利用が多く、現状利用では小学生の利用が主である。市内の「一般」は主に主催事業を示し、主催事業の集客への貢献が見られる。



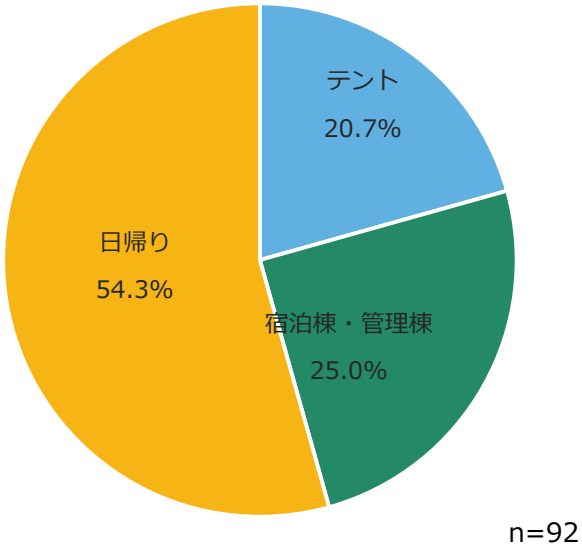


注：家族の利用には家族だけで利用するものと、自主事業等への家族での参加も含まれる。また、市外の一般には専門学校等も混在しており、分類の正確さに問題が見られる。

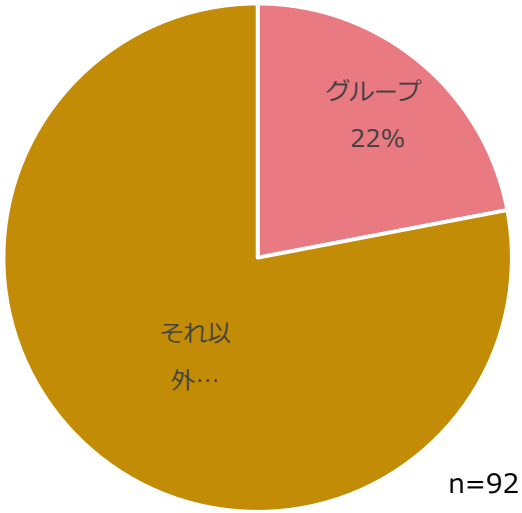
現況分析：家族の利用動向

市内外の家族の利用(自主事業等のイベント参加ではなく、個人で来る場合*）を見ると、過半数が日帰り利用である。宿泊する家族は宿泊棟・管理棟利用が約半分である。家族の分類のなかで、複数の家族での利用を示す「グループ」の利用は、全体の2割程度（団体数ベース）見られる。

市内外の家族の利用形態の割合



市内外の家族利用のうち「グループ」の割合



*市が規定する利用区分のうち区分Aの「3.市内家族」に該当するデータを抽出。前頁の家族利用の数よりも少なくなっている。

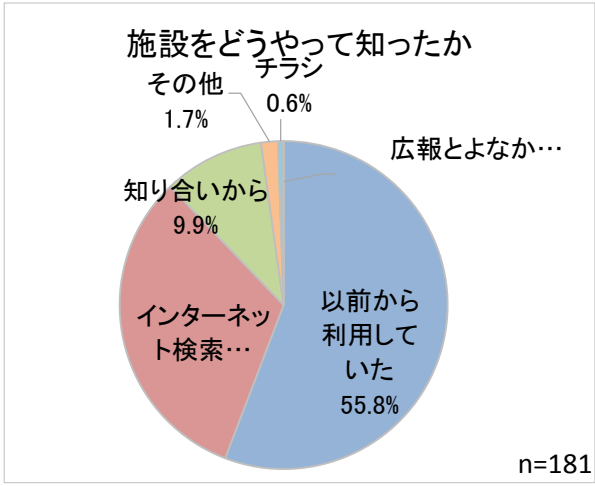
現況分析：自主事業一覧

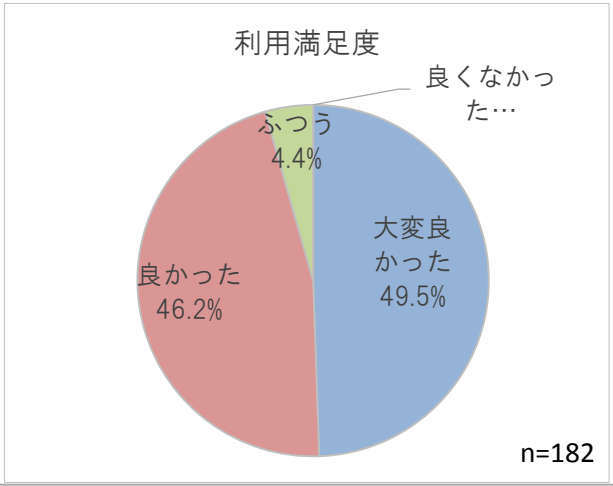
施設整備を兼ねたワークキャンプ、野外活動ボランティア育成、家族向けイベント、天体望遠鏡施設を使った星を見る会、小学生のわっぱるファンクラブ登録者（「わっぱるキッズ」）向けのイベント等、年間20回（1回の共催事業を含む）で合計1,437人（年）を集客している。

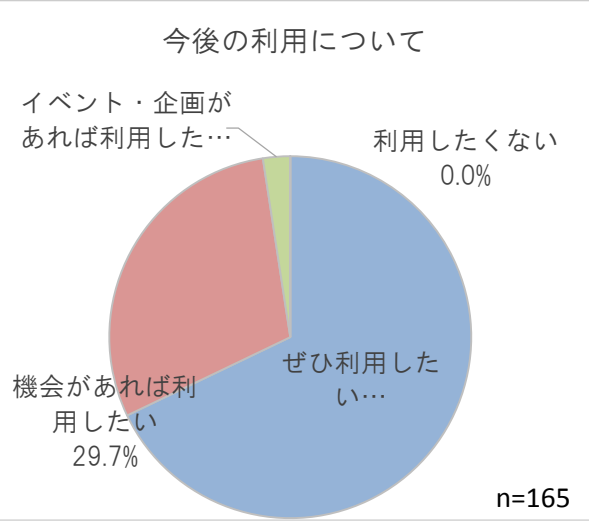
NO	事業名	対象	参加費	目的	内容	参加人数
1	オープンフェスタ 春	家族・グループ	【日帰り】大人1,000円 小学生以下 500円 3歳以下 無料 【宿泊】大人5,000円 小学生以下4,000円 3歳以下 500円	わっぱるを開放し、自然とのふれ合いの場・野外で遊ぶ場を提供することで、里山の季節・自然を満喫してもらう。	ウォークラリー、クラフト、火おこし体験、おやつ作り、似顔絵コーナー、ピザづくり、太陽観察など	387
2	オープンフェスタ 秋	家族・グループ			ウォークラリー、クラフト、火おこし体験、おはしづくり、似顔絵コーナー、おやつ作り、太陽観察、焚き火コーナーなど	318
3	ワークキャンプ 6月	一般	―	夏の繁忙期前に、わっぱるの施設整備を利用団体の方々と行う。	テント設営、防腐剤塗り、溝掃除、川掃除、枯れ木の伐倒、プール塗装、ハイキング道整備など	60
4	ワークキャンプ 9月	一般	―	夏の繁忙期後に、わっぱるの施設整備を利用団体の方々と行う。	テント撤収、プール掃除、枯れ木の伐倒など	39
5	ジュニアキャンプ	小学生（5,6年）	15,000円	高学年（5,6年）を対象に、高学年ならではの野外活動を体験する。	トワイライトハイク、テント泊、全自炊、キャンプファイヤー、川遊びなど	28
6	キャンピングスクール	小学生（3.4年）	13,000円	中学年（3,4年）を対象に、キャンプの入門として基本的な野外活動プログラムを体験する。	テント泊、野外炊事、クラフト、キャンプファイヤー	41
7	キャンプテクニックスクール	一般	2日と16日　1,000円 23日　4,000円	日常的に子どもと関わる立場の人々に、コミュニケーションのありかた、グループでの振る舞いや声のかけ方などを学ぶと同時に指導者間の交流の機会とする。	コミュニケーションプログラム体験、意見交換など	49
8	ユースチャレンジキャンプ	困難を有する若者	8,000円	わっぱるでの整備作業を通して、他人と協力することの大切さを知り、仕事を通しての達成感を得る。また、食事作りなど、基本的な生活習慣を身に着ける。	場内の整備、整備計画策定、食事作りなど とよの地域若者サポートセンターとの協力事業	11
9	わっぱるキッズ　カレー作り	小学生（1～6年）	6,000円	「カレー作り」のプログラムを通して、野外活動の楽しさを感じて親しんでもらう。	カレー作り、簡単なクラフトなど	38
10	わっぱるキッズ　川の生きもの観察	小学生（1～6年）	6,000円	施設を流れる「大路次川」での採集・観察を通して、生きものへの関心を高める。	川での生物採集、観察など	36
11	わっぱるキッズ　サマーキャンプ	小学生（1～6年）	10,000円	1泊2日のキャンプを通して「わっぱる」と自然、友達に親しむ。	野外料理、工作、テント泊、野宿、キャンプファイヤーなど	43
12	わっぱるキッズ　たき火	小学生（1～6年）	6,000円	「火」に親しむとともに、その扱い方を知る。	たき火、炭づくりなど	33
13	わっぱるキッズ　クリスマス	小学生（1～6年）	10,000円	「わっぱる」ならではのクリスマスを楽しみ、自然と友だちと親しむ心を持つ。	ウォークラリー、キャンドルファイヤー、クラフト、ケーキ作り　など	40
14	わっぱるキッズ　餅つき	小学生（1～6年）	6,000円	「わっぱる」ならではのお正月を楽しみ、わっぱるの自然や友だちに親しんでもらう。	お餅つき、お正月遊び　など	34
15	わっぱるキッズ　みそ作り	小学生（1～6年）	6,000円	「味噌」を使ったり、作ったりすることを通して、わっぱるの自然や友だちに親しんでもらう。	味噌づくり、野外炊事 など	34
16	わっぱるの森をつくろう①	家族・グループ・一般	大人 800円 小学生以下 400円	伐採や薪作りの体験により、森のしくみを学び森を大切にする心を育てる。森を活用したプログラムを開発し、利用団体などにプログラムを提供できるようにする。	森の観察・苗木づくり	31
17	わっぱるの森をつくろう②	家族・グループ・一般			マキ割り・焚き火	23
18	わっぱるの森をつくろう③	家族・グループ・一般			低木の間伐・クラフト	37
19	わっぱるの森をつくろう④	家族・グループ・一般			野外料理・植樹	35
20	豊中星空まつりin能勢（共催事業）	家族・グループ	大人4,500円 高校生以下3,000円 小学生未満1,500円	星空観察、星空に関するプログラムを通して、星や宇宙に親しみを持ってもらう。		120

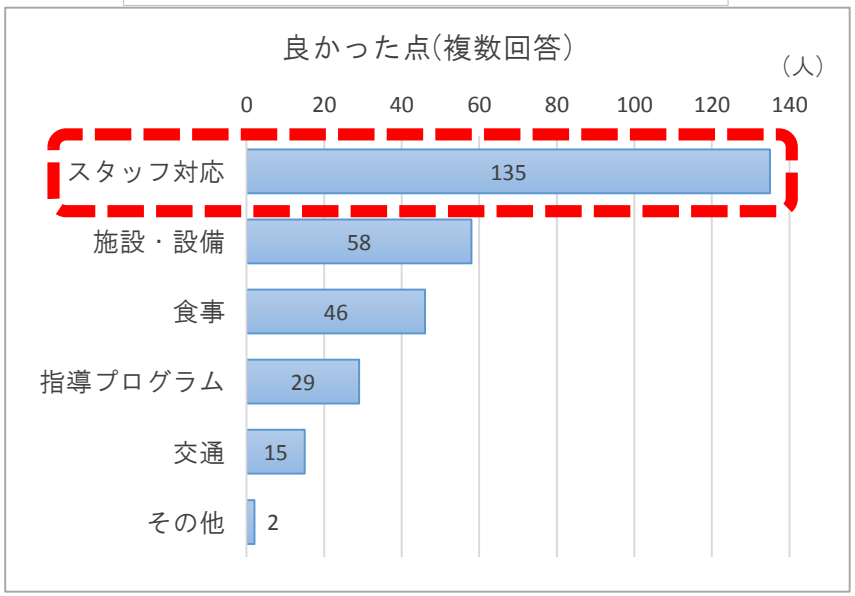
現況分析：高い利用者満足度

リピーター利用が過半数を超えているが、インターネット検索による新規利用者も3割程度存在する。満足度は95%以上が好印象をもち、その要因は主にスタッフ対応のよさに起因する。今後の利用に関しても約98%がまた利用したいと好意的な反応であり、認知度の向上や施設の魅力向上によりさらなる集客が見込める可能性はある。









※　アンケートは、利用者が来訪時に1団体につき1枚の用紙を渡し、出発時に回収する形式。回収率は約60%

現況分析：利用者の不満が高いところ（自由回答欄）

全体としての満足度は高いながらも、利用者アンケートの自由回答からはわっぱるの設備の古さへの不満が目立つ。とくに和式のトイレの評判が悪く、洋式トイレしか利用したことがない子どもを持つ団体からの不満が高い。全体的な数の不足も指摘されている。

利用者アンケートにみるトイレに対する要望例

「洋式トイレがほしい（男子トイレ）」

「子供が洋式タイプのトイレに慣れており、和式タイプのものに慣れず、難ぎした」

「洋式トイレの場所が増えるとよい」

「トイレは和式より様式のほうが多ければよかったと思います」

「トイレが遠い」

注：表記はアンケートのまま
出典　わっぱる利用者アンケート原本より抜粋

運営上の課題（困難な点含む）

運営上は予約業務の複雑さによる煩雑さが目立つ。自主事業である程度集客はできている一方、イベントを支えるスタッフ数は母体となるNPOのボランティアの協力によるところも大きい。また、自然の中なので悪天候時による影響も受けやすい。

運営上の課題	問題点
予約業務の複雑さ ①料金	• 現状ルールによる利用料金の算出が複雑 （目的利用かどうか、大人・小中・未就学児の別の把握）
予約業務の複雑さ ②雨天時の対応	• テントサイト宿泊希望者に対しては、天候悪化時に備えて、宿泊棟・管理棟内でも宿泊できる予備の場所を確保しながら予約を調整する必要がある • ゆえにインターネットによる単純予約が難しい
予約業務の複雑さ ③野外炊事場	• 野外炊事場利用希望者に対して空き状況を確認しながら、予約を受ける必要性がある
自主事業時のボランティア確保	• 自主事業のイベント開催時にはわっぱるの職員6名に加えてボランティアに手伝ってもらう必要がある • ボランティアは運営団体の母体団体から主に参加してもらっている
悪天候時	• 川の利用の制限や、大雨時は予約のキャンセルもありうる
小さい部屋がない	• 家族等の個人利用の場合、少ない人数で10人部屋を1部屋利用してもらうので運営上の効率が悪い

参考：わっぱる運営スタッフの内訳及び役割

所長：全体統括・市との折衝
副所長：運営全般の管理
施設管理マネージャー：施設管理
指導員（2人）：プログラム指導
広報担当：イベントの企画・広報等
合計6人

現況分析まとめ：簡易評価

林間学校用の施設としては魅力が薄いが、キャンプサイトや自然を体験する場としては魅力があり、設備のアップグレードと利用者支援サービスレベルの維持、利用料金の適正化により、持続可能な施設として再生できる可能性は見られる。

区分	詳細	魅力度	良い点・悪い点
施設	宿泊棟・管理棟	×	• 全体的に老朽化しており、快適に使うためには大規模修繕が必要 • とくにトイレ・浴室・冷暖房設備の改修は急務 • 林間学校のような大規模利用が稀で、需要低い
	駐車場	△	• 現状大きな問題はないが、繁忙期には不足している。
	野外炊事場	△	• 炊事場施設や椅子・テーブルはそのまま使える可能性が高い • 屋根をかけ替える等のしつらえの工夫により改善の余地
	キャンプサイト	○	• プライバシーが保たれる設計になっている点はよい
	川・水遊び場	○	• 小さな子供も安心して遊ばせることが可能で、利用者の評判もよい
サービス	NPO豊中やきょう	○	• 野外活動イベント・プログラムの充実化 • 利用者の要望をかなえようとする姿勢が利用者からの信頼・高い満足度につながり、リピーターも生んでいる
収益性	施設全体	×	• 今日の物価に比較して、利用料設定が低廉すぎるため、投資に回す収益が発生しない